

綾
きずな

KANKEN

Vol.62[秋号]

2022年 11月発行



カンケン・フロンティア Frontier

発行／菅野建設工業株式会社 福島県本宮市長屋字征矢田6 TEL.0243-44-2120(代)

人々の暮らしを日々支え、豊かな地域社会を形成する

道路橋りょう整備(再復)工事(舗装) 【大綱木1-1工区】



ごあいさつ

代表取締役

菅野 泰助



「歩み」～富士山登頂～

ご縁があり、日本一の頂上へ行ってまいりました。

やはり富士山は正直で、土砂降りの雨のなか苦労して登り切ったご褒美は、日本一高い場所からの大パノラマ、青空と眼下に広がる真っ白な雲海、満点の星空と、その優雅で雄大な景色に全てが浄化されてしまう御来光、力強さのみならず怖さすら感じる山頂火

口でした。そんな日本一の頂に、目的の一つである弊社の社旗を掲げることができたことに感慨無量の想いです。

今回の富士山登頂で学んだことは、向かうベクトル（目標）を明確にすること、どんなに苦難困難であっても小さな一步だとしても歩みを止めなければ確実にゴールにたどり着くこと、登山前の準備、そして登山・下山への対策と予防などでした。

これらは全て企業経営と同じ事で、企業理念や経営方針に繋がるものです。日本一登頂を契機に、今後も企業繁栄と顧客満足・社員満足へ向け、一歩一歩確実に歩み続けてまいります。



富士山8合目から望む御来光



富士山山頂にて社旗を掲げる

道路橋りょう整備(再復)工事(舗装)【大綱木1-1工区】



全景

10月20日、かねてより当社が施工してまいりました、川俣町大綱木地内の国道349号線大綱木1-1工区舗装工事が完了しました。

国道349号線は、当県を挟んで茨城県と宮城県を縦断する、実延長約260kmの道路です。多くが山間部を通過し、未だ各所に幅員が狭隘かつ屈曲した箇所が残されているため、大型車両同士のすれ違いや歩行者が危険にさらされるなど、一早い改良整備が望まれており、当社も長く整備に携わっております。

今回の工事区間は全長約1,000メートルで、工事起点の南側約100メートルの口太山トンネル内天井に、県内で初めてプロジェクションマッピングによる「出口信号あり」の文字を表示し、注意喚起を促す保安施設の設置を実施しました。また、トンネル出口側には、警備員の安全と工事区域への注意喚起を強化するため、バルーン式の人型交通誘導安全標識も設置しました。

プロジェクションマッピング表示について
取材を受ける現場代理人 佐久間篤氏

プロジェクションマッピング



バルーン式人型交通誘導安全標識

工事概要

■工事名／道路橋りょう整備(再復)工事(舗装)【大綱木1-1工区】

■所在地／国道349号 福島県伊達郡川俣町大綱木地内

■発注者／福島県県北建設事務所

■工事内容／

舗装工 L=900.0m W=6.5(10.25)m、下層路盤工(t=15cm)A=826.8m²
上層路盤工(t=15cm)A=5,605.0m²【一部ICT活用施工 A=3,426.5m²】
基層工(t=5cm)A=5,599.2m²、表層工(t=5cm)A=7,017.3m²
歩道路盤工 A=1,569.6m²、歩道舗装工 A=1,946.3m²、法面工 一式
防草対策工 一式、排水構造物工 一式、縁石工 一式、ガードレール設置 一式
区画線工 一式、1号現道付替道路 一式

■現場担当者／佐久間篤、移川孝市、齋藤祐樹

道路は人と暮らしを支え、豊かな地域社会を形成する上で重要な社会資本であり、災害時も物資運搬や緊急車両の通行など「命をつなぐ道」であることは言うまでもありません。今後も沿線市町村の利便性の向上や地域発展を目指し、安全を確保しながら社会資本整備に尽力してまいります。

福島県産業安全衛生大会表彰授与



表彰式



受賞会場にて



表彰状

指し、業種を問わず誰でも利用でき、現場で起こり得る事故・災害につながる様々な状況を、実際に疑似体験することが可能で、これまで社内外1,332名の研修を実施しています。

安全管理に尽力した安全功労者として、当社菅野社長が唐橋会長から手渡され、「福島県労働基準協会会長賞」を受賞しました。

当社はこれからも、労働環境の安全確保とその維持に努め、また現状維持に留まらない発展的意識を持って安全管理に注力してまいります。

令和4年10月6日、白河文化交流館コニネスにおいて、一般社団法人福島県労働基準協会主催の「令和4年度福島県産業安全衛生大会」が開催され、当社の安全管理への取り組みが表彰されました。

評価の対象となったのは、2018年に当社敷地内に開設した「危険体感実技センター」です。建設産業の労働災害低減を目

event of company 社内行事

第33回 安全衛生大会

第33回当社安全衛生大会が開催される予定でしたが、今回も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催を中止としました。

また、協力会社並びに協力会社社員の方々への安全衛生功劳賞・安全標語コンクール入賞について、表彰状をお贈りいたしました。

なお、当社の受賞者につきましては、10月1日の全体朝礼にて菅野社長より表彰状を授与いたしました。

◇安全衛生功劳賞

土木本部／安齋忠幸、渡邊智、葛籠貫直樹

大内喜内、齋藤和樹、尾形大樹

鈴木正宏、田中得

建築本部／白岩竜一、矢川智教、丹内直人

◇安全標語コンクール入賞者

(金賞) 斎藤裕一、(銀賞) 佐藤ひとみ

(佳作) 安齋佳祐



表彰式



受賞者集合写真

新卒者採用に伴う応募前職場見学会

8月6日、令和5年3月卒業予定の高校生と令和6年3月卒業予定の大学生を対象とした応募前職場見学会を行いました。

見学会では建築作業所・土木作業所で、それぞれ担当の現場代理人が説明を行いました。参加した5名の学生は熱心に説明を聞いていました。

また、危険体感実技センターで体験したり、社員寮、カンケンフィットネス・ジムを見学しました。今後の学習、進路選択に役立てばと思います。



建設作業所での見学



土木作業所での見学



危険体感実技センターでのVR体験



会社説明会の様子

令和4年度 インターンシップ（現場実習）

建設業の役割や魅力を体験してもうおうと、県内の高校生を対象に実際の職場を見学・体験して頂く現場実習を実施しました。

9月6日、二本松工業高等学校都市システム科の2年生3名が、実際の工事現場を見学し、測量をしたり重機の操作説明を聞いたりしたほか、当社の危険体感実技センターでは、バーチャルリアリティ技術を活用しCGで再現した重機の横転、重機との挟まれの衝撃感覚を擬似体験して頂きました。



現場実習の様子



体験学習の様子



現場実習の様子

これからも現場体験会などを通し、建設業界の将来の担い手確保に向け努めてまいります。



体験会の様子

地域貢献の美化活動

7月6日、社会貢献の一環として、郡山市上伊豆島地内の西部第1工業団地で美化活動を実施し、当社社員や協力会社など13名が参加しました。

当社が施工した佐藤コンクリートの工場棟・事務所棟（現場代理人／磯貝忠夫）が5月末に完成したことから、地域関係者の協力に感謝の気持ちを込めて、紙くずなどのゴミを丁寧に拾い、地域の美化に取り組みました。



美化活動の様子

労働災害防止研修会

令和4年7月から10月にかけて労働災害防止のための研修会を、当社の危険体感実技センターで開催いたしました。

研修会には、アサヒビル（㈱福島工場、㈲真壁工務店）、その他の企業約90名が参加しました。

参加者はそれぞれ、バーチャルリアリティ技術を活用したCG再現の①重機の横転、②壁と重機に挟まる衝撃感覚を疑似体験したり、ディスクグライダー取り扱い中の①急激な負荷、②「キックバック現象」（回転数が急激に低下したことによる材料または機械が作業者側に弾き飛ばされる現象）などを体感しました。

さらに、センター内の様々な設備を用いた現場で起こりうる労働災害の危険を直に体感した上で、安全作業確保に向けた危険回避のポイントや具体策などを確認されておりました。

以後も、この危険体感実技研修を通じて皆様とともに安全意識の向上に努めてまいります。



研修会の様子



研修会の様子

川俣小学校 建設業体験会

7月15日、国道349号大綱木工区施工現場にて、小学生を対象に建設業体験会を実施、川俣小学校の5年生約40名に参加して頂きました。

体験会では、情報通信技術（ICT）を取り入れた工事の概要を説明した他、当社社員から重機運転を学ぶためのシミュレーターの操作法などを指導致しました。

参加した児童らは測量体験やシミュレーターを用いた重機の操縦を体験し、建設業への興味を深められたようでした。



当社は、社員が心身ともに元気に働く会社を目指して、健康づくりに取り組んでいます。



菅野建設工業は
福島ユナイテッドFCを
応援しています。